

Summary, 5 June, 2019

日時：平成 31 (2019) 年 6 月 5 日 18:00~19:30

会場：東京外国語大学 語学研究所

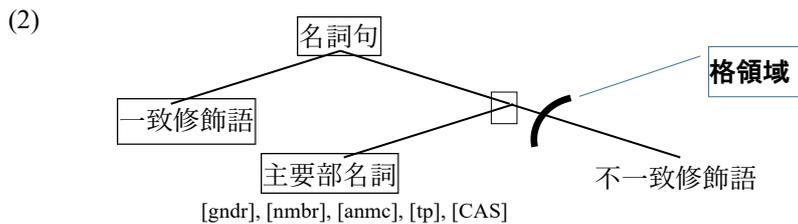
「ロシア語の典型から逸脱する名詞句としての数量詞句について」

Russian Quantifier Phrases as Deviation from Typical Noun Phrases

発表者：匹田 剛(東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授 / 言語学、ロシア語学)

HIKITA Go

ロシア語の典型的な名詞句を以下の様な構造だと考える：



典型的な名詞句において主要部名詞と一致修飾語などの四角で囲んだ節点は格の他，一致素性を共有するが，格領域を異にする不一致修飾語はそれらを共有しない．また，この名詞句を主語とした場合，述語の一致は当然一つのパターンしかない．

ところが，数量詞句の場合，述語の一致には複数のものが可能で，また格が数量詞句内で全ての要素が一致する場合としない場合があるし，数，性，有生性に関しても同様である．これらの典型からの逸脱を説明するために数量詞がそれぞれ以下の素性を持つと仮定した：

(2)数詞の持つ素性とそのスロット

	数	性	有生性	屈折タイプ	格
1	[ø]	[ø]	[ø]	×	[ø]
2	[pauc]	[ø]	[ø]	×	[ø]
3, 4	[pauc]	×	[ø]	×	[ø]
5~	×	×	[in]	[III]	[ø]
100	×	×	[in]	[IV]	[ø]
1,000	[sg/pl]	[f]	[in]	[II]	[ø]
100 万	[sg/pl]	[m]	[in]	[I]	[ø]
ряд	[sg/pl]	[m], etc...	[in]	[I], etc...	[ø]

(3)数量詞の格付与と名詞の素性に格領域を越えさせる素性

		1	2	3	5	100	1,000	100 万	ряд etc.
越に名 え格詞 の さ領 せ域素 るを性	(i) asCase	-	+	+	+	+	+	+	+
	(ii) asLex	-	-	-	-	-	±	+	+
	(iii) upNum		+	+	+	+	+	+	+
	(iv) horNum		+	+	+	+	-	-	-
	(v) horGend		+	-	-	-	-	-	-
	(vi) upAni		+	+	-	-	-	-	-
	(vii) horAni		+	+	+	+	-	-	-
	(viii) setContr		+	+	+	+	+	+	-

up- : 上方向にコピー， hor- : 横方向にコピー
setContr : 述語の一致の controller に指定
asCase : 格付与能力あり， asLex : 語彙格の付与能力あり

その上で以下の各々によって数量詞句の示す典型的名詞句の振る舞いからの逸脱の説明を試みた：

(4)素性と格について

Summary, 5 June, 2019

- (a) 単数：[-pl], 複数：[+pl], 少数：[+pl, +pauc]
- (b) 男性：[+m, -f], 女性：[-m, +f], 中性：[-m, -f], 総性：[+m, +f]
- (c) 「2, 3, 4」や *оба* などの数量詞は本来的に[+pl, +pauc]([pauc])を持っている.
- (d) 語彙格 > 数量属格 > 構造格
- (5) 素性の削除規則
 - (a) 性の素性は複数で消失する
 - (b) 性の素性は少数では消失しない
 - (c) 屈折タイプの素性は複数で消失する
 - (d) 屈折タイプの素性は少数では消失しない
 - (e) 少数の素性[+pauc]は数量生格以外で消失する → 結果, 複数になる
 - (f) ただし, 内在的素性の削除は不可
- (6) 名詞句内の様々な接点を述語の一致の controller にできるが, 実際に述語が一致できるのは主格主語のみ. それ以外を controller に指定すると default の形となる